



## ご使用の注意事項

■グランドバリアクロスは、99.9%以上の遮光性能を持っています。

日光を遮ることでシート下雑草の光合成を妨げ、生長のリスクを低減します。

■多年生雑草（この内、特に繁殖力の強い強雑草）は地下茎に養分を保持するため、生長を完全に防ぐことはできません。抜根処理、土壌改質や除草剤の散布と併用してのご使用を推奨します。

■周辺に多年生雑草の密生地がある場合、地下茎により雑草が侵入してくる場合がありますので、土地の防根処理と併用していただくことを推奨します。

■グランドバリアクロスを一部の範囲のみ施工し、周辺に雑草が生い茂る環境下では、飛来種や地下茎の影響で防草効果を十分に発揮しない恐れがあります。

■シート上に飛来した種子が根付く場合があります。農耕地等の肥沃な土地に施工される場合は特に注意が必要です。

■杭周辺は光が漏れやすく、凹みに土や飛来種が溜まりやすいため、杭を必要以上に使用すると雑草は発生しやすくなります。杭打ち部に粘着シートを併用していただくことで、雑草リスクを低減することができます。

■強風等でシート状に砂や土が溜まった場合や雑草の種子が溜まっている場合、飛来種の発芽を促進する恐れがあります。

■グランドバリアクロスは織物タイプの防草シートですので、施工する際、引っ張り過ぎると折り目に隙間が空いて光が漏れ、防草効果を十分に発揮しない場合があります。

■タバコ火等によりシートに穴が空くと、そこから光が漏れ、雑草が生える場合があります。また、高温のものを近づけるとシートの変形や収縮に繋がりますのでご注意ください。

■シート施工時に刈り取った草の株や茎がグランドバリアクロスを貫通し、隙間が空くと、そこから光が漏れ、防草効果を十分に発揮しない場合があります。施工前に雑草を平坦に刈り取ることを推奨します。

■シート状に砂利を施工（5cm~10cm）することでシートの耐用年数を伸ばすことができます。砂利には防草石を使用することで、雑草をはえにくくすることができます。

■草刈りの最適時期は主要雑草の種子をつける前（成長時期の初期）です。草刈りによって種子が大量に落ちた場合、雑草が生えやすくなりますのでご注意ください。

■施工参照の除草剤は茎葉吸収移行性の防草剤を想定しています。散布は除草剤の使用方法を参照に実施してください。

■竹や笹をグランドバリアクロスで防ぐことはできません。